

安全で楽しいセイリングのために

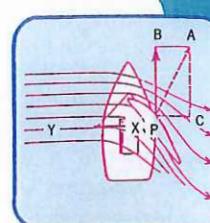
HOW TO SAILING



ヨットはセイルにあたる風の力を利用して走りますが、セイルに風を受けとめ風に押されて走るのは、ヨットが後方から風を受けて走っているときだけです。では、ヨットのななめ前や横から風を受けたときに、どうして走るのでしよう。

●ヨットの走るわけ

セイルの断面は飛行機の翼と同じような形をしています。飛行機が翼にあたる空気の流れを揚力に変えるように、セイルも両面を流れる空気の流れのスピードの違いを揚力に変えているのです。



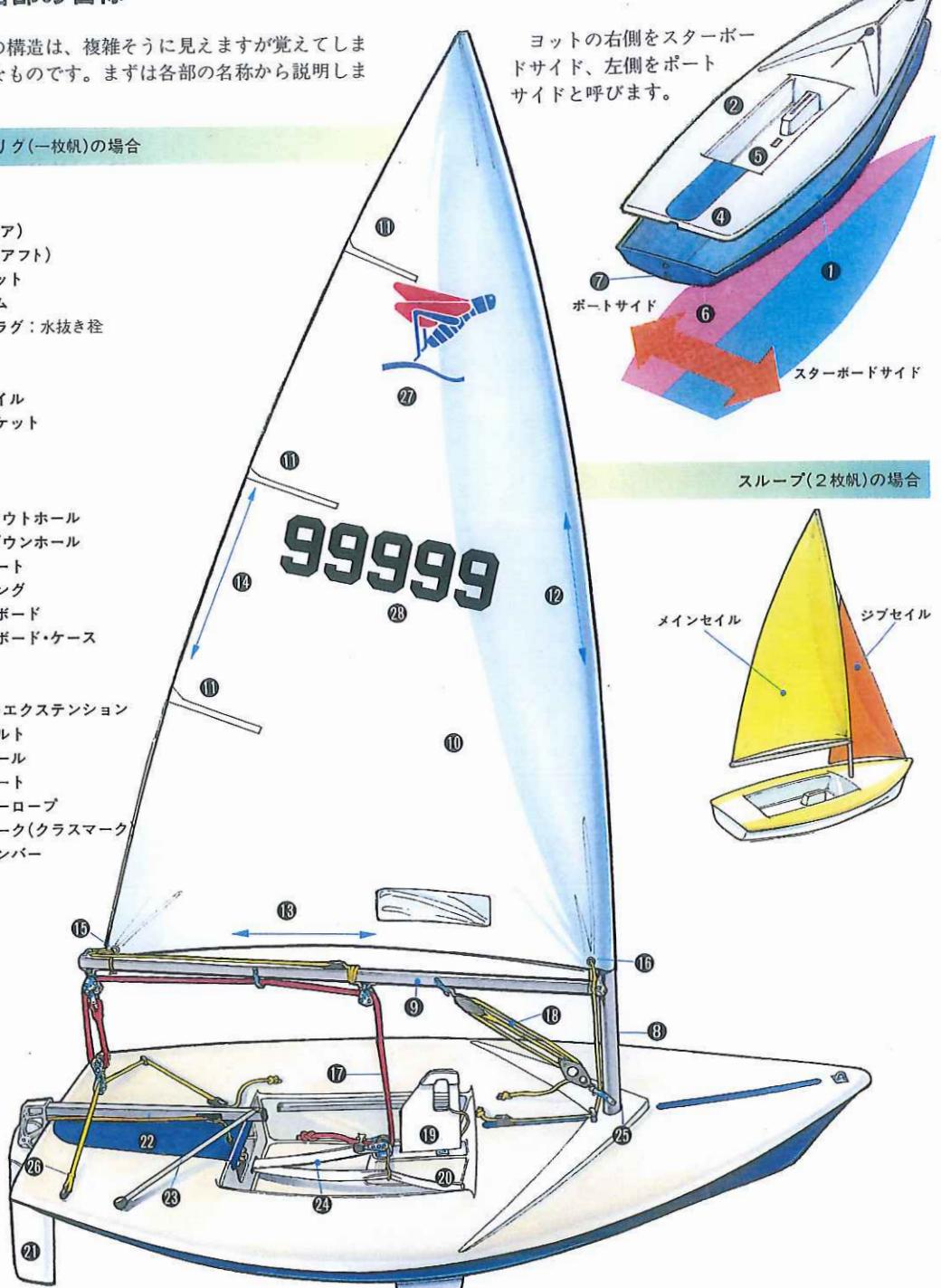
左図の矢印PAの力は、ベクトルでPCとPBに分かれます。PCはヨットを横へ流そうとする力で、この力を打ち消すためにセンターボードによる抵抗力XYが必要となります。そして残ったPBがヨットの推進力となって、ヨットは前へ進むというわけです。

ヨット各部の名称

ヨットの構造は、複雑そうに見えますが覚えててしまえば簡単なものです。まずは各部の名称から説明しましょう。

キャットリグ(一枚帆)の場合

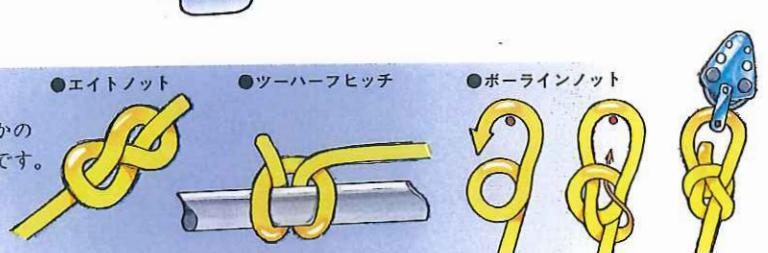
- ①ハル
- ②デッキ
- ③バウ(フォア)
- ④スター(アフト)
- ⑤コックピット
- ⑥トランサム
- ⑦ドレンプラグ: 水抜き栓
- ⑧マスト
- ⑨ブーム
- ⑩メインセイル
- ⑪バテンポケット
- ⑫ラフ
- ⑬フット
- ⑭リーチ
- ⑮クルー・アウトホール
- ⑯タック・ダウンホール
- ⑰メインシート
- ⑱ブームバンジ
- ⑲センター・ボード
- ⑳センター・ボード・ケース
- ㉑ラダー
- ㉒ティラー
- ㉓ティラー・エクステンション
- ㉔フットベルト
- ㉕マストホール
- ㉖メインシート
- ㉗トラベラーロープ
- ㉘セイルマーク(クラスマーク)
- ㉙セイルナンバー



スループ(2枚帆)の場合



ヨットに乗るために、いくつかのロープワークを覚えることが必要です。練習してマスターしましょう。



風を目でみる

ヨットを風上に走らせるには、風の吹いてくる方向を知ることが大切です。目に見えない風も、風見、他のヨットのセイル、波、岸にみえる煙などで知ることができます。風の方向を知るにはこまかい観察力が必要です。



風上と風下の関係

風上: ヨットの進行方向に対して、セイルの出でない舷側が風上となります。

風下: ヨットの進行方向に対して、セイルの出ている舷側が風下となります。



●ポート・タック: ヨットの進行方向に対して左側(ポートサイド)から風を受け、右側(スターボードサイド)にセイルを出している状態。

●スター・ボード・タック: ヨットの進行方向に対し右側(スター・ボードサイド)から風を受け、左側(ポートサイド)にセイルが出ていている状態。

シートはヨットのアクセル&ブレーキ

横風を受けて基本帆走を覚えよう

ヨットのスピードは、メインシートを引いたり出したりすることによって調節できます。

①走るときは

- Ⓐティラーを船首尾線と平行になるように軽く握った状態でメインシートを引きはじめます。
- Ⓑセイルのシバーが少なくなり、セイルは風を受けはじめ、ヨットは走り出します。
- Ⓒシートをどんどんぐっていくと、シバーはなくなり、ヨットのスピードは最も速いものになります。



方向転換を覚えて海の上を自由に走ろう

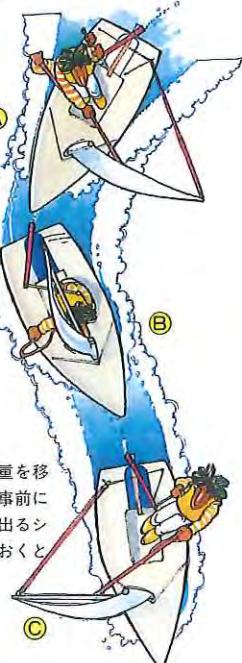
①ジャイビング

ランニングで走っているヨットをペアさせ、それまで風を受けていたのとは反対側の舷から風を受けて再びランニングで走るまでの、風下に向って方向転換することをジャイビング(あるいはジャイブ)と呼びます。

- Ⓐローリングに注意しながらメインシートをブームの下からダイレクトに(下のブロックからではなく)つかみ、タイミングを計り、イッキに大きくティラーを切ると同時に、シートを目一杯ひきます。

- Ⓑブームがヨットの中心線を過ぎて、新しい舷から風を受けたら、すかさずメインシートをゆるめます。(ブームで頭を打たれないように注意)

- Ⓒセイルが十分に開くと同時に、体重を移動しながらバランスをとります。事前にブームが進行方向に対して直角に出るシートの位置に、エイトノットしておくと必要以上にシートが出ません。



②タッキング

クローズ・ホールドで帆走しているヨットをラフさせ、それまで風を受けていたのとは反対側の舷から風を受けて再びクローズ・ホールドで走るまでの方向転換をタッキング(あるいはタック)と呼びます。

- Ⓐティラーをゆっくり風下側に切り(急に切り過ぎるとブレーキになってしまう)ながら、スターン側の足を風下側の前方にずらし、腰を低くして体を移動する準備をします。

- Ⓑティラーを戻しながら、メインシートを持った手と、ティラーを後ろ手で持ち替えます。セイルが新しい舷から風を受けないうちにフットベルトに足をかけます。

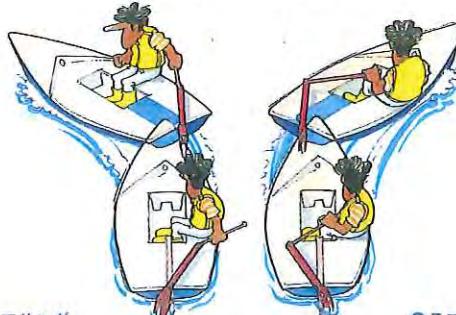
- Ⓕ新しいタックで走り始めたら、バウを風下におとしすぎないようにしましょう。



ティラーはヨットのハンドルです

ヨットの方向を変えるのは、ティラーによる舵の操作です。車の場合は目的の方向へハンドルを回しますが、ヨットの場合は目的の方向とは逆方向へティラーを押す(引く)ことになります。つまり車でバックしているときの前輪の動きに似ています。

キミがヨットの風上に座っているとして、ヨットが前進しているときには……



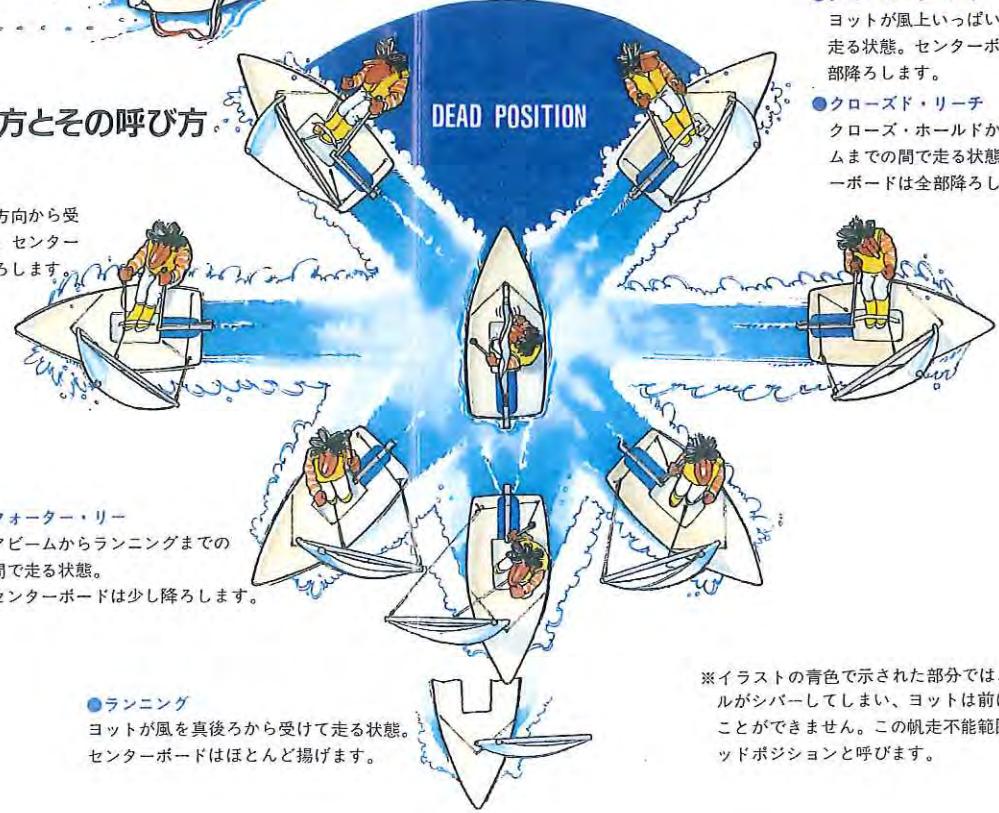
●ベーリング

ティラーを風上側に引けば、バウは風下に向きます。

ヨットの走り方とその呼び方

●アビーム

ヨットが風を横方向から受けて、走る状態。センター・ボードは半分降ろします。



●クォーター・リー

アビームからランニングまでの間で走る状態。センター・ボードは少し降ろします。

●ランニング

ヨットが風を真後ろから受けて走る状態。センター・ボードはほとんど揚げます。

※イラストの青色で示された部分では、セイルがシバーしてしまい、ヨットは前に走ることができません。この帆走不能範囲をデッドポジションと呼びます。

◆ランニングでは ワイルド・ジャイブに要注意

ブームやセイルがヨットの舷外にほとんど出ているランニングでは、予期せぬヒールや逆ヒールをおこすなど、ヨットの走るコースがふらつきやすくなります。

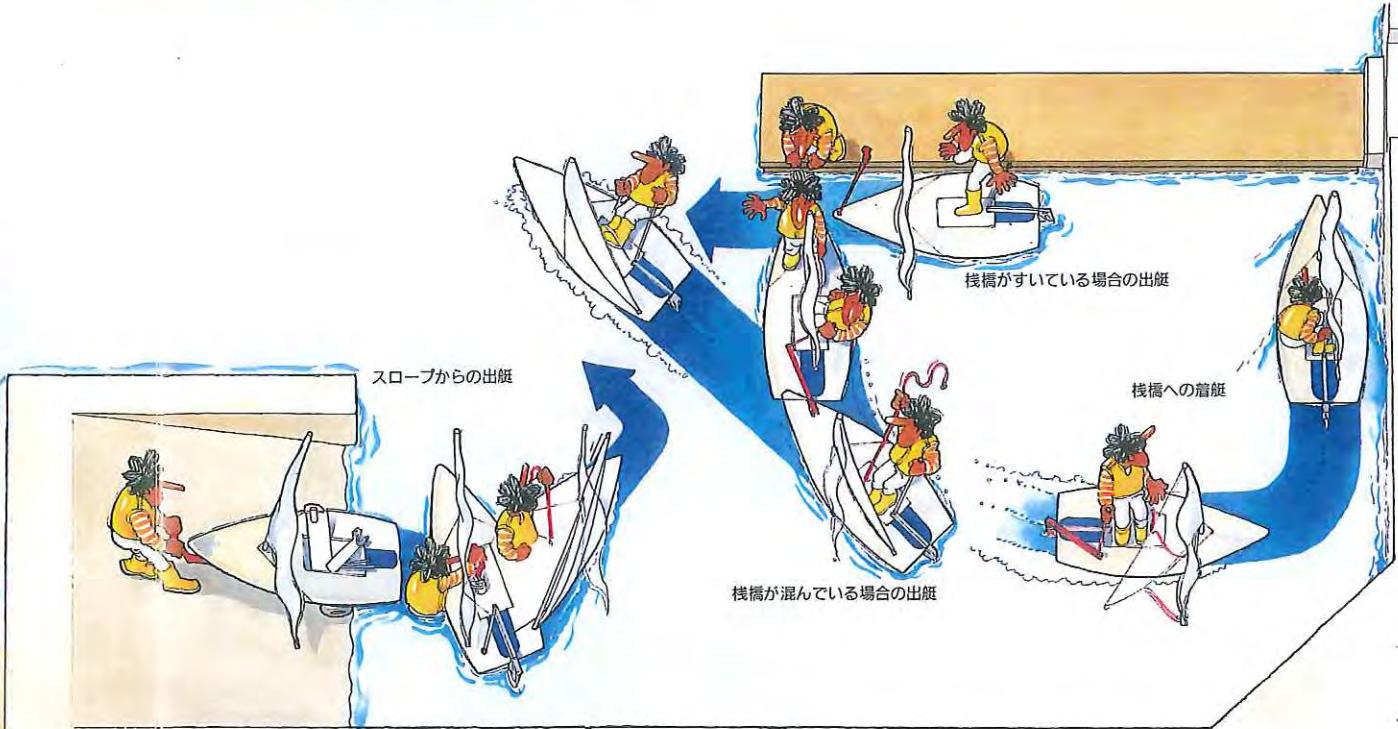
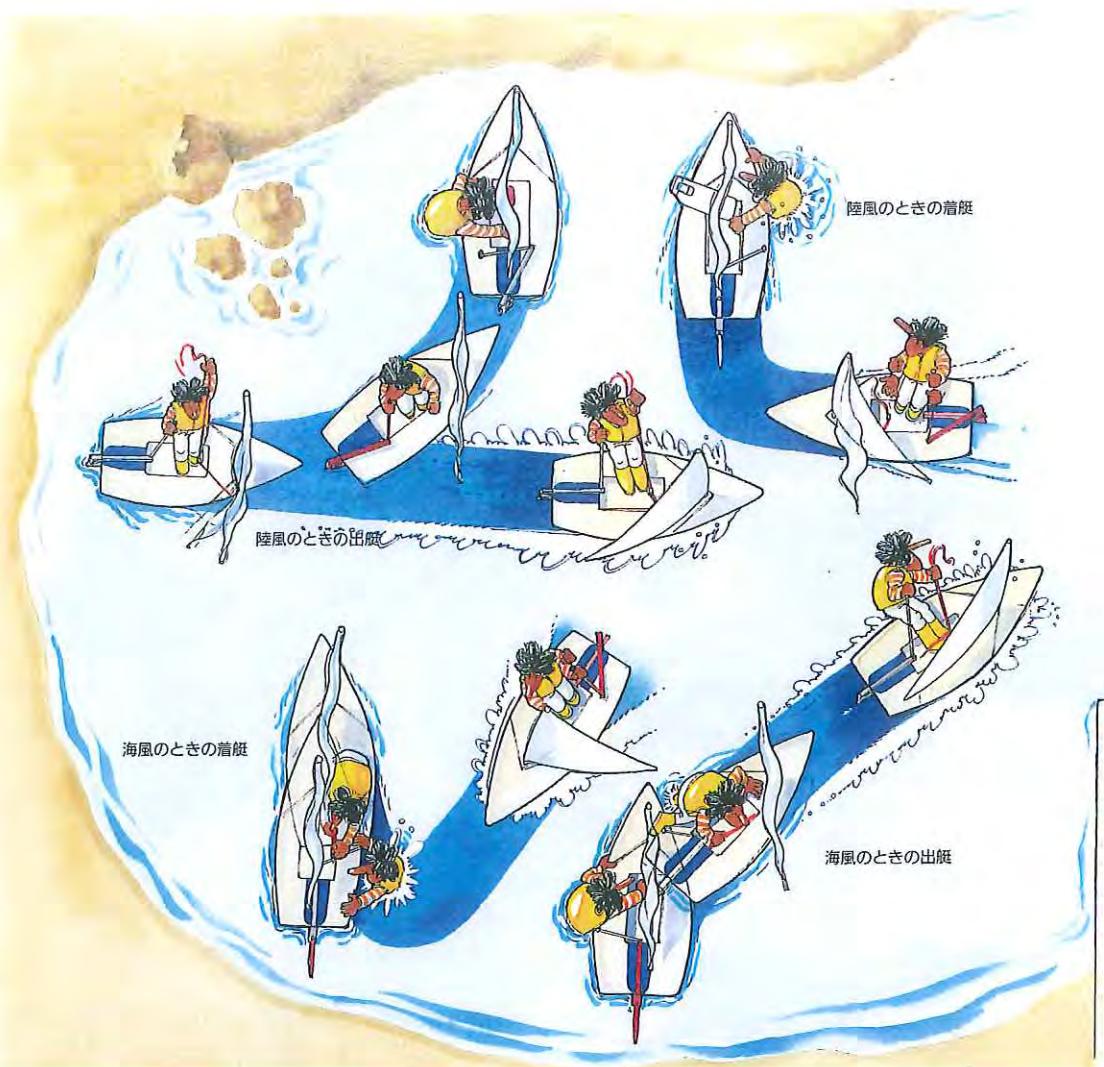
ヨットが蛇行したり、急に風向が変わったりして、セイルの裏側に風が回りこむと、自分が意図しないのにジャイブしてしまうことがあります。このことをワイルド・ジャイブと呼びます。ワイルド・ジャイブでは、重心が逆になったり、シートがものにひっかかったり、ブームに頭をぶつけたりして、ヨットの倒れる原因になりますから注意しましょう。

◆ヨットが傾いたらハイクアウト

クローズホールドやアビームで走らせると、ヨットは多少風下に傾斜(ヒール)します。それがあまりひどくなると、ヨットを風下に倒す(沈をする)原因にもなります。

このときには体重を使ってヨットのヒールを防ぎます。効果的な方法は、フットベルトに足をしっかりとかけ、身体を舷の外へ乗り出すようにします(この動作をハイクアウトと呼びます)。

もし、それでもデッキが水につかるようなら、シートをゆるめティラーを押してヨットを風上にむけましょう。ヨットは倒れないで風上に向って止ります。ディンギーのバランスをとるために、体重移動をうまく行うことが大切です。



砂浜から海へ、出艇です

ヨットのぎ装が終って海に出すときには、まず風の弱い波の静かな場所を選びましょう。

〈砂浜やスロープの場合〉

- 海風(向い風)のときはバウから水に入れ、陸風(追い風)のときはスタートから水に入れましょう。このとき、セイルがシバーするようにメインシートはいっぱいにゆるめておくことが大切です。
- 次に波うちぎわをすぎて、センターボードやラダーが水底につかなければ深さまで持っていきます。(仲間に手伝ってもらいましょう)
- センターボードやラダーをすばやくセットしてヨットをクローズホールドかアビームで走れる角度に向けて乗り込みます。
- ティラーをしっかりとぎり、シートをゆっくりと引けばヨットは走り出します。

〈桟橋の場合〉

- セイルをシバーさせ、もやいロープをはずします。
- ヨットが風に押されて後退はじめたら、ティラーを行きたい方向へ切ります。
- ヨットのバウが走りたい方向に向いたらティラーを戻し、メインシートを引き込めばヨットは走り出します。

海から砂浜へ着艇します

ヨットを岸につけるときにも、もちろん風の弱い波の静かな場所を選びましょう。

〈砂浜やスロープの場合〉

- 走りながらセンターボードやラダーが水底につくつかない所まできたら、ヨットを風に対して横向きにしてシートをゆるめセイルをシバーさせます。
- 次にセンターボードとラダーをあげ、パドリングなどで浅いところにきたらヨットから降ります。
- 波の強いときは沖側に立って、波の弱いときは岸側に立ってヨットを砂浜まで運びあげます。

〈桟橋の場合〉

- アビームで桟橋に近づきます。
- ティラーを押しヨットを桟橋に向けながら、メインシートをゆるめ、スピードを落とします。
- さらにラフして風圧でスピードを止めていき、もやいロープを桟橋につないで着艇です。

※出艇も着艇も慣れるまでは仲間に手伝ってもらってやるようにしましょう。
※スロープは足が滑りやすいので特に足元には注意しましょう。

◆ひっくり返しては起こす練習も

ヨットがバランスを失って倒れることを沈と呼びます。もし沈してもあわてずにヨットから絶対に離れないことです。ヨットは起こして再び走れるものですから、周囲の安全に注意して起こしましょう。慣れればむずかしくありませんから、時にはわざとヨットをひっくり返して起こす練習も必要です。

- Ⓐヨットが倒れたらボトム側にすばやく回り込んでセンターボードに乗り、ヨットの端に手をかけて起こし、すばやくコクリクトに入ります。ヨットが風上を向いていないとせっかく起こしても反対側にまた倒れてしまうことがあるので、ヨットは風上に向けるようにします。



ヨットが起きたら風上側からフットベルトやグラブレールをつかんでいいあがります。

Ⓒ沈したら、とにかくヨットから手を離さないことが大切です。ヨットが風に流されないように注意しましょう

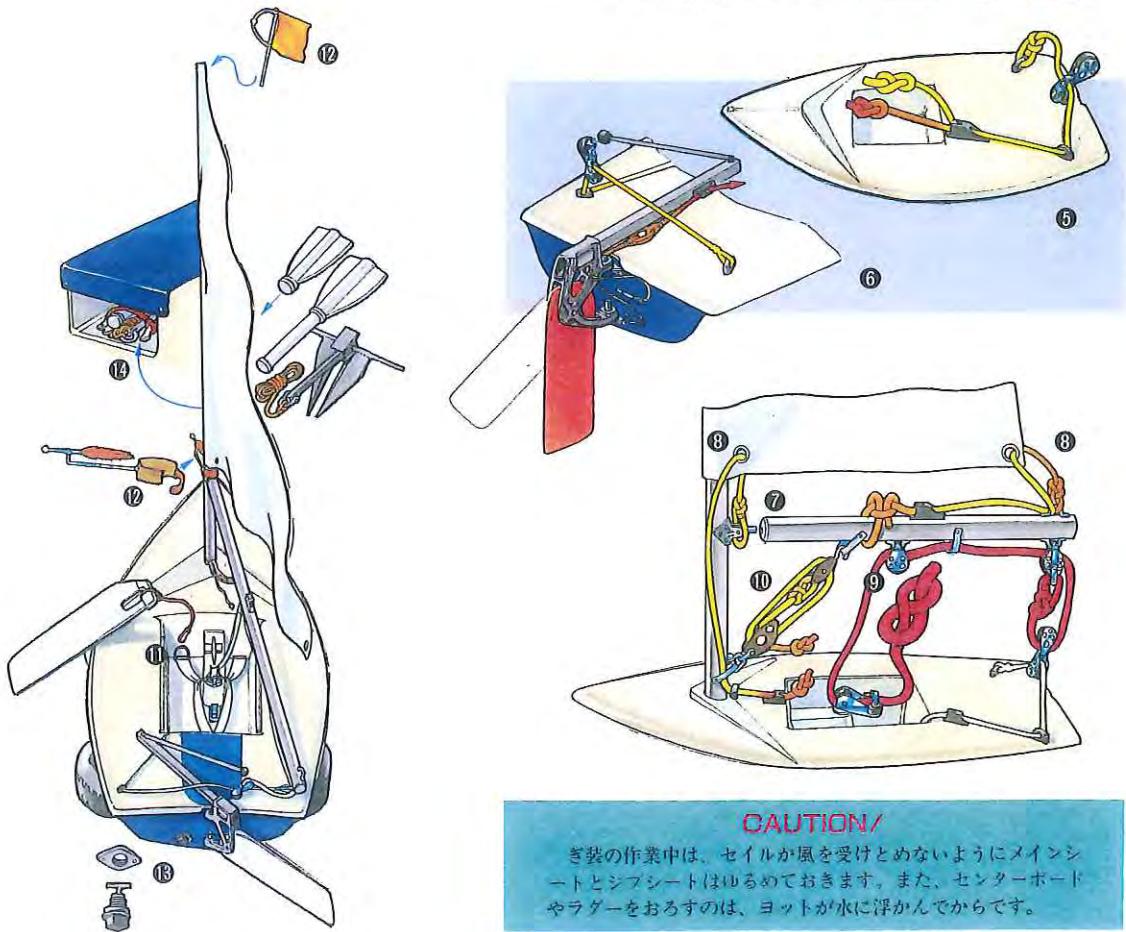
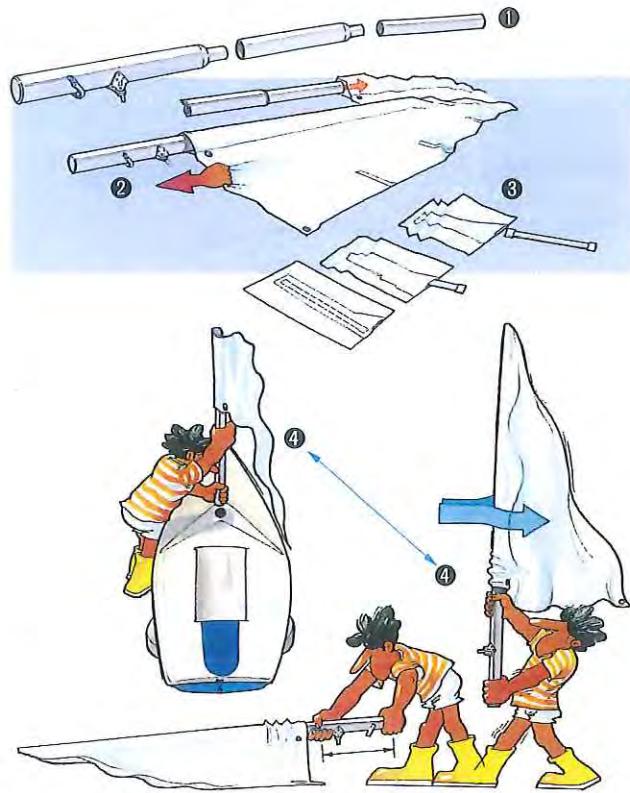


セイリング前の準備

艇体にマストを立て、ブームを取りつけ、セイルをはり、シートやラダーなどをつけ、ヨットが走れるようにする作業のことを、ヨットをぎ装する（あるいはフィッティングする）といいます。順序と作業を正しく覚えましょう。

ぎ装の手順（シーホッパーの場合）

- ①マストをつなぐ
- ②マストにメインセイルをかぶせる
- ③バテンポケットにバテンを入れる
- ④セイルをつけたマストを立ててマストホールに入る。このとき手と手の間隔をとり、安定させ、マストの先を風に向かながら起こし、倒されないように注意する
- ⑤メインシート・トラベラーロープを取りつける
(ティラーはトラベラーの下を通す)
- ⑥ティラーとラダーを取りつける
- ⑦マストにブームをつける
- ⑧クルー・アウトホール、タック・ダウンホールをつける
- ⑨メインシートをつける
- ⑩ブームバングをつける
- ⑪センター・ボードが落ちないようにフットベルトの輪にフックでとめる
- ⑫風見をつける
- ⑬ドレンプラグをしめる
- ⑭パドルとアンカーをスクリーンハッチに収納する



海のルールとマナー

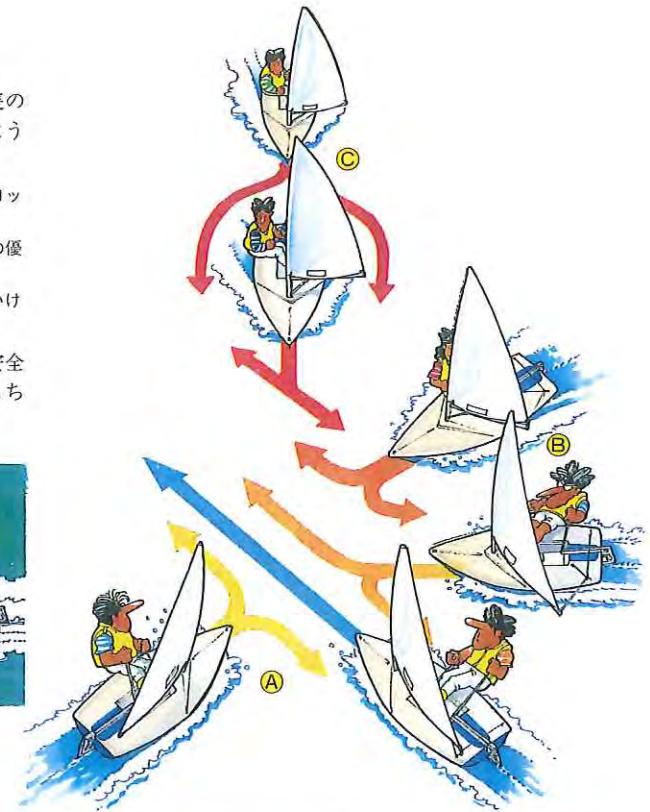
①広い海の上にも国際的な交通ルールがあります。2隻のヨットの進路が接近して衝突の危険がある時には次のようにします。

- Ⓐタックが違う2隻のヨットの場合は、スタートボード・タックのヨットに進路の優先権があります。
- Ⓑタックが同じ2隻のヨットの場合は、風下にいるヨットに進路の優先権があります。
- Ⓒ追い越すヨットは、追い越そうとするヨットの進路を妨げてはいけません。

②海は遊びの場であると同時に働く場でもあります。安全にヨットを楽しむには、他人に迷惑をかけないことはもちろん、マナーを守って仲よくすることが大切です。



- 漁業をしている漁師さんや、作業中の船には進路をゆずりましょう。



③海に出る日は天気予報を確認しましょう。

- 海に着いて波が高かったり、風が強く吹いていたら出艇を見合わせましょう。



ヨットマンの服装

ヨットに乗るときは、泳ぎに自信のある人でも必ずライフジャケットをつけましょう。服装は身体の動きが楽なもの、足は運動グツやデッキシューズで靴底のスペリににくいもの。水に濡れても大丈夫なものが便利です。メガネなどはバンドなどで頬からはずれないようにしましょう。



■スキッパーとクルーの役割

シーホッパーはワンマン・デインギーですが、その他のデインギーには2人乗りや3人乗りなどのものがあります。乗り手の役割分担を紹介しましょう。

●スキッパー(船長)

ヨットのスタート

側に乗り、ティラー

とメインシートを持ち、ヨットを操船する人。



●クルー
障害物など、海面の状況を見ながら、ジブシートの調節と艇のバランスをとる人。



WAKASU SEASIDE PARK
YACHT TRAINING CENTER
WAKASU YACHT SCHOOL

〒136-0083 東京都江東区若洲3-1-1
TEL 03-5569-6703
URL://www.tptc.co.jp/park/03-06

私たちはセーフティーセイリングを心がけます。

●定められた定員を守ろう ●ライフジャケットは必ず着用しよう ●海水浴場や漁場などのセイリングは避けよう ●行動予定を届け、なるべくグループでセイリングしよう ●天気予報を確認して無理のないセイリングをしよう ●空缶やゴミは海に捨てず、持ち帰ろう ●船の整備、点検を忘れずに行おう